

連合東京 2025 新春のつどい 会長挨拶

2025 年 1 月 7 日

会長 斉藤 千秋

2025 年の新たな年を迎え、主催者を代表してご挨拶を申し上げます。

本日は、ご多忙の中、私たちの「新春のつどい」にご来賓として、連合本部より芳野会長、東京都より小池知事、東京労働局より富田局長をはじめ、多数の方々にご臨席頂いております。高いところからではありますが、御礼申し上げます。

今年の三が日は、穏やかに迎えることができましたが、思い返すと昨年は、能登半島地震が発生し厳粛な年明けになっていました。あれから 1 年が経過し、いまだ復興が進まない地域の報道をみると、引き続きの支援の必要性を感じつつ、阪神・淡路大震災の発災から 30 年の今年、改めて防災・減災の重要性を感じる新年を迎えています。

連合東京を代表し、政策実現、組織拡大、平和への思いに絞って述べ、新年のあいさつと致します。

私たち連合東京にとって、昨年の政策制度の実現の大きな成果は、東京都の「カスタマーハラスメント防止条例」の制定です。東京都や各都議会会派に要請し、約 1 年で制定を実現しました。これは、都政や都議会議員との日常的な連携の上に実現したものです。今、私たちが直面する政策課題は、後期高齢者が人口の 2 割を超え、超高齢化社会が到来する一方で、少子化に歯止めがかからず、労働力人口の減少が経済成長の停滞をもたらすことが懸念されています。AI や DX 化、ビッグデータの活用、これらを支える安定した電源が重要となるとともに、私たちの暮らしが効率化・省人化されていくなか、益々、人間らしい仕事、人とのふれあいが残る仕事に、私たちは付加価値を創造していかなければなりません。年齢・性別、障がいの有無などにかかわらず、誰にとっても「働くことを軸とする安心社会」を創っていくことが必要です。

東京にとって 12 年に一度となる都議会議員選挙と参議院議員選挙が重なる今年、私たちの政策実現に、ともに連携できる議員をひとりでも多く当選させる、そのことが私たちの政策実現につながっていきます。連合東京の組織力を結集し、2 つの大きな選挙に取り組んでいきたいと思えます。

次に組織拡大についてです。

年末に発表となりました昨年 6 月末現在の連合東京組合員数は 127 万人となり、昨年よりも 1 万人以上増加しました。これは、ここにお集りの組織の皆様の日々の組織拡大への取り組みが、しっかりと人数として反映された結果だと思えます。年末の生産性新聞に、昨年お亡くなりになった元連合会長の高木さんの寄稿がありました。その中で高木さんは「労働組合専従役員の最も重要な活動は組織化で、組織化の単語のにおいも嗅ぐこともなく専従役員の任期を過ごすことは許されないことだ」と記していました。都内には労働組合のない企業で働く労働者がたくさんいます。従業員が少なく労働組合を結成できない会社で働いている人もいます。雇用の多様化で個人事業主やフリーランスとして働くことを選択している人もいます。その労働者のセーフティネットは脆弱で、悩みを抱えていて

も相談できる仲間がいない人もたくさんいます。私たちは街宣行動や SNS の活用などで、産別運動や連合運動についての発信力を高め、すべての働く人とつながり、私たち連合の仲間を増やす不断の努力と挑戦を、今年も続けていかななくては いけません。この力強い組織「連合」にひとりでも多くの仲間を迎えることに汗を かいていきましょう。

3 つ目は平和です。

今年 8 月、日本は終戦から 80 年を迎えます。米国の大統領に再びトランプ氏が就任することで、新年早々から、世界的に経済や社会が変わっていくことに不安と期待が交錯していますが、長らく続いている世界の紛争が、よくも悪くも世界を席卷するリーダーの復活により終結に向かい、世界中の人が「平和」を実感できる年になればと思います。そして、唯一の戦争被爆国の労働組合として「核兵器のない世界」を目指す志を次世代に継承していきたいと思っています。

むすびにあたり、2025 年は巳年、乙巳(きのとみ)の年は「努力を重ね、物事を安定させていく」年になると言われています。

まじめに働く人たちの生活に安定をもたらすために努力を惜しまず、私たち連合東京ができることをしっかりと実践し、連合運動を前進させていくことお伝えし、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

ありがとうございました。

以 上